

平成29年度第5回理系チャレンジ講座を実施しました

第5回理系チャレンジ講座が、平成29年11月15日、本学福祉健康科学部の兒玉雅明先生により、「研究者は世の中の常識を疑問に変えよう！—胃の病気とピロリ菌の発見—」と題して行われました。

来学した大分南、遠隔配信された中津南、大分鶴崎、高田、大分西、安心院、別府翔青、大分雄城台、日田、竹田、臼杵、国東の12校156名の高校生が受講しました。

兒玉先生の授業は「科学とは何か？」「理系に必要なものは何か？」という問題提示から始まりました。



天動説が「常識」であった当時、現在では常識である、ガリレオ・ガリレイの地動説が受け入れられなかったという例を挙げ、「昔の人は、古い常識にとらわれ新しいことを迫害していた。昔の人はなんと愚かだったのだろう。」と話されました。しかし、それは昔の人に限ったことではなく、常識に反する新発見に対する偏見はいつの世にも存在するということを、ピロリ菌の研究の過程を例に挙げて示しました。そして、「理系の人は、常に世の中の常識に疑問を持とう！」と受講生たちに伝えました。先生が10年間胃の中を観察し、そのデータをまとめた論文が評価を受けたという経験から、「私は、数学や



物理などの難しいことはやっていない、調べているだけだ。」と言われ調べることの大切さと、理系はあくまでも地道な観察が大事であることを示しました。数学ができないから理系には向かないと考える必要はない。「好奇心・疑問を持つこと」、「観察すること」、「記録すること」それを続けていく地道な努力こそが「理系」に必要であることを強調されました。

講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して授業がよかった」(96%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ)、



「教員は真剣に取り組んでいた」(99%)、「受講生は授業に意欲的に取り組んでいた」(98%)という結果でした。遠隔配信については、「音声はよく聞こえた」(95%)、「映像はよく見えた」(93%)という結果が出ました。受講生からは「常に疑問を持つことが大事だと分かった」「研究はあきらめないことが大切だと思った」「日頃から好奇心をもって過ごしたいと思った」「私たちの世代はピロリ菌感染率が低いと知って安心した」といった感想が寄せられました。

